ART TAITO-KU

16

Taito-ku
Art Project
Archive
2008→2017

平成28年度

企画

- 疎開サロン公演「牡丹灯籠」
- インナー・ランドスケープス、トゥルク
- ピエレットの婚礼
- ライト俳句落語会in子規庵
- 吉原芸術大サービス2016 (P48)
- 生活と表現2016 (P78)

短評

『インナー・ランドスケープス、トゥルク』や、『ピエレットの婚礼』など、企画にバリエーションが感じられた28年度。特に正岡子規終焉の地である台東区で「ライト俳句」という新たなジャンルの確立を目指した『ライト俳句落語会』は、支援制度9年目にして初の俳句企画としての採択となりました。企画者の方々も審査員一同も実現まで苦労した部分はありましたが、その分終えてからの達成感もより大きく感じられた年でした。

photo by Yuki Fueki

photo by Yuki Fueki

Title
疎開サロン公演
牡丹燈籠

主催者
疎開サロン

開催期間
2016.09.22—25

会場
市田邸

市田邸

三遊亭圓朝原作の「牡丹燈籠」を題材にした現代劇

「疎開サロン」は演出家田丸一宏を中心に、さまざまな国や時代の戯曲を、現代に生きる私たちならではの感覚で読み解き発信する、ほかの集団では真似できないような斬新かつスタイリッシュな演出を目指して、台東区を拠点に活動している演劇ユニットです。疎開サロン公演『牡丹燈籠』は、三遊亭圓朝原作の「怪談牡丹燈籠」の舞台でもある、三崎坂近くの上野桜木の古民家を会場に、新たな視点で制作した演劇公演です。今回の公演会場には建物を保存、また管理している「たいとう歴史都市研究会」の協力で、国の登録有形文化財にも指定されている「市田邸」を使わせていただきました。「市田邸」は、寺町から屋敷町に遷り変わった上野桜木の地に、明治40年、日本橋の布問屋を営む初代市田善兵衛がその居を構えました。築100年を越えた今も、芸術文化活動の拠点として親しまれています。今回の公演では、14畳の座敷に定員20名という規模の小さな会場を最大限生かすため、客席のある座敷だけでなく縁側・庭など古民家全体を舞台として使用しました。手を伸ばせば役者に触れることができそうな距離感で展開される舞台は、とても迫力があり、大きな劇場では体験することのできない本企画ならではの演出として、大きなポイントになったのではないかと思います。

【開催状況】

全4日間10回に渡る公演では、「怪談牡丹燈籠」の中でも代表的な章である「お札はがし」「孝助の槍」「栗橋宿／お峰殺し」を三部作として披露しました。企画当初は、一番有名な章である「お札はがし」のみの予定でしたが、想像以上に超大作であり、上演シーンを絞り切ることが出来ず三部構成としました。結果、総上演時間が4時間半を超える内容でしたが、予想に反して三部を通して観ていただいた方が多数いました。期間中はあいにくのお天気でしたが、雨や風といった自然現象がより一層怪談話の雰囲気を演出し、効果的な役割を果してくれました。また演劇公演だけでなく、新しい試みとして『牡丹燈籠』の舞台としても登場する三崎坂にあるカフェで、お箏の生演奏と演出家による解説付きの朗読会を特別企画として実施しました。普段直接聞くことが出来ない演出家の話がセットになった朗読会は、演劇公演を見た人だけでなく、まだ見ていない人からもとても好評でした。また、『牡丹燈籠』の舞台でもある谷根千エリアを知ってもらう機会になればと思い、『牡丹燈籠』に縁のある地や疎開サロンがおすすめするスポットを紹介した谷根千マップを制作しました。とても好評で、公演終了後には地図を片手に三崎坂界隈を散策する方も多く見受けられました。

photo by Yuki Fueki
孝助の槍

企画者からのコメント

小規模の演劇公演では俳優やスタッフにきちんとした謝礼を払えることが少ないため、支援制度を受けることで、俳優やスタッフに少しでも多く払えたことが作品向上に繋がりました。また当初は、公演以外に関連企画を考えていましたが、アドバイザーから公演のみにするという意見を頂き、結果的に企画として集中したものにできました。現在、私たちは台東区内を中心に年2回の演劇公演を行っていますが、採択後は演劇公演だけでなく、オペラ公演や舞台写真展、音楽ライブなどさまざまな企画を行っています。

photo by Yuki Fueki
栗橋宿・お峰殺し

photo by Yuki Fueki
お札はがし

チラシ

メンバー

Title
インナー・ランドスケープス、トゥルク

主催者
インナー・ランドスケープス・プロジェクト・イン・ジャパン実行委員会

開催期間
2016.10.18—11.06

会場
ＨＡＧＩＳＯ、旧平櫛田中邸

HAGISO

インタビューを通して個々人や家族の記憶をゆるやかにつなぎ、街や人を映し出すアートプロジェクト

『インナー・ランドスケープス、トゥルク』は、2009年にフィンランドの写真家マルヤ・ピリラと日本の陶芸作家ユニットSatoko Sai＋Tomoko Kurahara（崔聡子・蔵原智子）の共同によりスタートしたアートプロジェクト『インナー・ランドスケープス』の日本版開催を目指すにあたって行われた巡回展。2011年にフィンランドで行われた、フィンランドの古都トゥルク市に住む高齢者へのインタビューを通して制作された写真と陶芸作品の展覧会を日本で紹介しました。

【開催状況】

フィンランド版「Inner Landscapes」の巡回展『インナー・ランドスケープス、トゥルク』は、築60年の木造アパート萩荘を改修し、2013年にオープンした谷中のＨＡＧＩＳＯで開催されました。マルヤ・ピリラの写真とSatoko Sai + Tomoko Kurahara の陶器、映像作品を展示し、プロジェクトの紹介をするとともに、今後の日本版インナー・ランドスケープス・プロジェクトを実施していくための足掛かり的な展示を目指しました。具体的にマルヤ・ピリラは、カメラ・オブスキュラの手法に特化した作品制作で、被写体の居室を「暗い部屋」へと変え、室内と屋外の風景が混ざり合う幻想的な光の反射の中で被写体を撮影した作品の展示です。Satoko Sai + Tomoko Kurahara は、それぞれの被写体の過去を映し出す肖像としての陶器を制作、陶器の内側にはアルバム写真や手紙・日記など、個人の歴史の断片が転写され、直接高齢者宅を訪問し、聞き取りした内容を反映しています。会期中は、展覧会だけでなく、写真家マルヤ・ピリラと陶芸作家ユニットSatoko Sai + Tomoko Kurahara による「アーティストトーク」として、撮影技法・展示方法や高齢者へのインタビューの様子等を直接聞くことが出来る機会を設けました。そのほか、まち・ひと・きおくをテーマにそれぞれの地域・場所で活動する写真の町シバタ・プロジェクト実行委員会をゲストに迎え、共通点や活動の課題等を語り合う「トークセッション」を旧平櫛田中邸で開催しました。それぞれの関連イベントでは、日本版インナー・ランドスケープス・プロジェクトの実現に向けて、谷中を中心とする台東区近辺地域でのモデル候補者を募ることが出来ました。今回、マルヤ・ピリラの初来日の実現により、実行委員会のメンバーで共に東京の町や人を体感できたこと・様々な人と出会えたことは、今後、具体化していく日本版「インナー・ランドスケープス」の実現に向けての重要な機会となりました。今後は、今回展覧会を実施した谷中エリアに住む高齢者へのインタビューを行いながら活動を続けていきます。

アーティストトーク

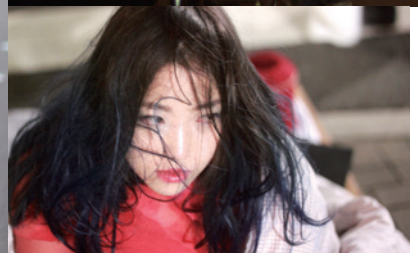
企画者からのコメント

支援制度を受けたことにより、金銭面の支援やアドバイザーや区の方々からの助言はもちろんですが、特に広報の面で区内の多くの施設へのチラシ配布や区報への情報掲載など、集客にもつながりとてもありがたかったです。
2018年の台東区近辺地域での日本版「インナー・ランドスケープス・プロジェクト」実施を目指し、2016年度の企画で得たつながりからモデル募集をするなど企画を継続して進めています。またその成果を展覧会や本として発表できるよう計画しています。

展示

トークセッション

チラシ



Title
ピエレットの婚礼

主催者
NNA/A

開催期間
2016.11.23

会場
共同アトリエ大塚ビル周辺

「ピエレットの婚礼」とは、実験的お祭りである。

NNA/Aには、2015年4月から美術・デザイン・建築を志す若いアーティストが集まり、橋場にある共同アトリエで一緒に生活し制作活動をしています。『ピエレットの婚礼』は、橋場1丁目にある共同アトリエ（大塚ビル）を拠点に活動する若手アーティストによる、演劇・ファッションショー・生け花等を披露するイベントです。当日は、地元町会や近隣の方々に協力いただき、会場である共同アトリエ（大塚ビル）前の道路を一日通行止めにし、会場の一部として演劇の客席スペースや屋台等を設置し、一日限定の「実験的お祭り」を開催しました。

【開催状況】

一日限定の「実験的お祭り」のオープニングは、ラップと音楽による企画の紹介からです。普段は人通りも少なく静かな通りも、音を聞きつけ近所の方や通りすがりの人が足を止めて賑やかな雰囲気の中でスタートしました。
賑やかなオープニングの後は、NNA/Aメンバーが『ピエレットの婚礼』をテーマにこの日のために制作した衣装を纏い、男女ペアで共同アトリエをバックにファッションショーを開催しました。ファッションショーには、NNA／Aメンバーだけでなく、様々な年代の方にボランティアとして参加してもらい、『ピエレットの婚礼』の世界観を表現しました。またファッションショーの後に続き、演劇公演の主役である「ピエレット」が最後に白い殻に包まれた謎の物体から、殻を破って登場する演出はとても盛り上がりました。
演劇公演では、共同アトリエの内部全面を教会に見立てたセットでオリジナル劇を披露しました。共同アトリエだけでなく、道路や客席スペースも使用することで来場者との距離がとても近くなりました。そして目の前で繰り広げられる演出によって、この場所ならではの特別な公演にすることが出来ました。
生け花パフォーマンスでは、通常生け花に必要な花器や剣山といった道具類を一切使用せず、タコ糸一つで自分の背丈よりも大きなモミジの枝や竹を共同アトリエの柱や見学している人にタコ糸を引っ張ってもらい、固定しました。パフォーマンスの最後には、固定していたタコ糸をすべて切り、一瞬で壊れるという仕掛けに参加者も驚いていました。
「実験的お祭り」の最後は、共同アトリエのある石浜町会にちなみ、石をテーマにした「小さな学校」と題した勉強会を開催しました。今までのパフォーマンスとは打って変わり、石浜町会の歴史・石の歴史等の専門的な内容を参加者が座って熱心に聴講する様は、学校の授業を受けているような雰囲気で不思議な空間となりました。
パフォーマンス以外にも「実験的お祭り」というテーマに合わせ、若いアーティストの作品（オリジナルTシャツ・生け花用の花器・金工作品等）を実際に購入することができる様々な屋台を用意し、参加者の方も興味深そうに手に取っていました。

生け花

企画者からのコメント

支援制度の後押しのおかげで、普段関わり合いのない近所の方との交流ができました。また、道を貸しきって公的な書類を通して活動できたことがとてもいい経験になりました。支援制度に携わったメンバーの一部で、今は福島県の大玉村という場所で藍を育てる歓藍社という活動をしています。
また、今年（29年度）には、11月23日に本当の結婚式を同じ場所で開きます。『ピエレットの婚礼』が本番を迎えます。

屋台（喫茶）

勉強会「小さな学校」

チラシ

Title
正岡子規 生誕百五十年
ライト俳句落語会in子規庵

主催者
八塚慎一郎

開催期間
2017.03.19—20

会場
子規庵

子規庵

新たなジャンルとなる「ライト俳句」の確立を提言

台東区は川柳発祥の地と呼ばれています。また、近代俳句を確立した正岡子規、終焉の地・子規庵もあります。2020年に向かって、我が国の文化を世界に紹介する気運の盛り上がりの中、日本の「滑稽」文化を世界の「kokkei」とするべく、川柳と俳句を融合した新しい世界文芸の形「ライト俳句」の確立を提言するために企画した落語会です。「ライト俳句」とは、俳句の大事な要素のひとつ、「俳味＝Haikai Flavor」を有していること。字数は約140文字程度。5・7・5や3行などの既存のルールに縛られない。改行・スペースは大事な「間」となるため、その表現方法は自由。世界が共有できる「Keyword＝key語」を連日兼題として掲げ、SNSを利用した世界規模の毎日句会を目指しています。

（例）俳聖・松尾芭蕉の世界で一番有名と思われる句「古池や蛙飛びこむ水の音」。この句の「俳味」にフォーカスを合わせてライト俳句化すると…「澱んだ水の／古池に／二の足を踏む／蛙が一匹／覗いていると／足を滑らせ／見事／腹打つ／水の音」

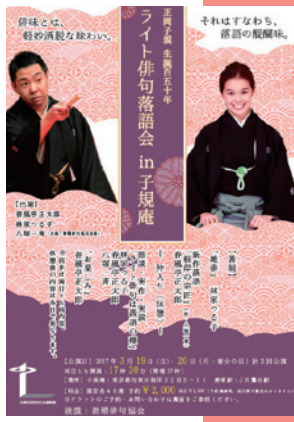
【開催状況】

「ライト俳句落語会」は、近代俳句の形を作りあげた正岡子規終焉の地である子規庵で開催されました。今回は、人気噺家の春風亭正太郎・林家つる子を迎えました。トップバッターは、会場である子規庵のすぐご近所の林家一門に入門し、活動している林家つる子さん。今回の公演のために、特別に俳句が登場する「雑俳」を覚えてもらい初披露しました。次に、主催者の八塚一青から、ライト俳句の定義やこの回の趣旨や今後の展望等について説明しました。実際に正岡子規の俳句をライト俳句化したものの紹介を行い、参加者の方にライト俳句への理解を深めていただきました。ライト俳句への理解が深まったところで、この公演のために書き上げた新作落語「根岸の宗匠」を春風亭正太郎さんが披露しました。子規庵を舞台に正岡子規が登場し、林家つる子さんが披露した「雑俳」の後日談として展開されるという本公演ならではの仕掛けとなりました。仲入り後は、主催者である八塚・春風亭正太郎さん・林家つる子さんによる解説や本公演の裏話等を披露しました。また、有名な俳句を小噺に展開する実演や来場のお客さんが実際に詠んだ俳句をライト俳句化し、それを題材に噺家さんが小噺を披露するという新しい試みはとても盛り上がりました。『ライト俳句落語会in子規庵』のトリは、春風亭正太郎さんによる古典落語です。当日のお楽しみとなっていた演目は、「茶の湯」と「愛宕山」です。新作落語・小噺の実演・古典落語と盛りだくさんの公演に、落語ファン・俳句ファン双方に楽しんでもらうことが出来ました。

当日の配布物

企画者からのコメント

支援制度を受けたことにより企画への信用度が得られ、東京新聞、愛媛新聞などのメディアから取材をしていただくことになり、より広く多方面に伝えることができました。平成29年10月22日に町田市民文学館ことばらんどにて同企画の公演を行います。今後も企画内容をパッケージング化し、日本全国各地での公演、ライト俳句の普及を目指します。



チラシ

メンバー